

昭和文学会 春季大会

*対面を主とするハイフレックス方式（対面・オンライン併用方式）

対面会場…県立神奈川近代文学館

オンライン…「Zoomウェビナー」による中継。リモート参加には事前登録が必要です。

詳細は昭和文学会HP (<http://swbg.org>) をご確認ください。

*日時 六月八日（土） 一三時～一七時

共催…県立神奈川近代文学館 公益財団法人神奈川文学振興会

特集 文庫本というメディアをめぐる

【開会の辞】

県立神奈川近代文学館館長

公益財団法人神奈川文学振興会理事長

荻野 アンナ

【基調講演】

文庫解説という迷宮

文芸評論家

斎藤 美奈子

司会 富永 真樹

【報告】

一九五〇年前後の文学形式 —— 文庫本再興期をめぐる ——

国文学研究資料館

多田 蔵人

文庫／文庫本がもたらした若年層向け小説の新展開

—— 「ライトノベル」の萌芽・誕生・確立 ——

白百合女子大学

山中 智省

司会 近藤 史織・松本 拓真

【シンポジウム】

司会 加藤 邦彦・木谷 真紀子

【閉会の辞】

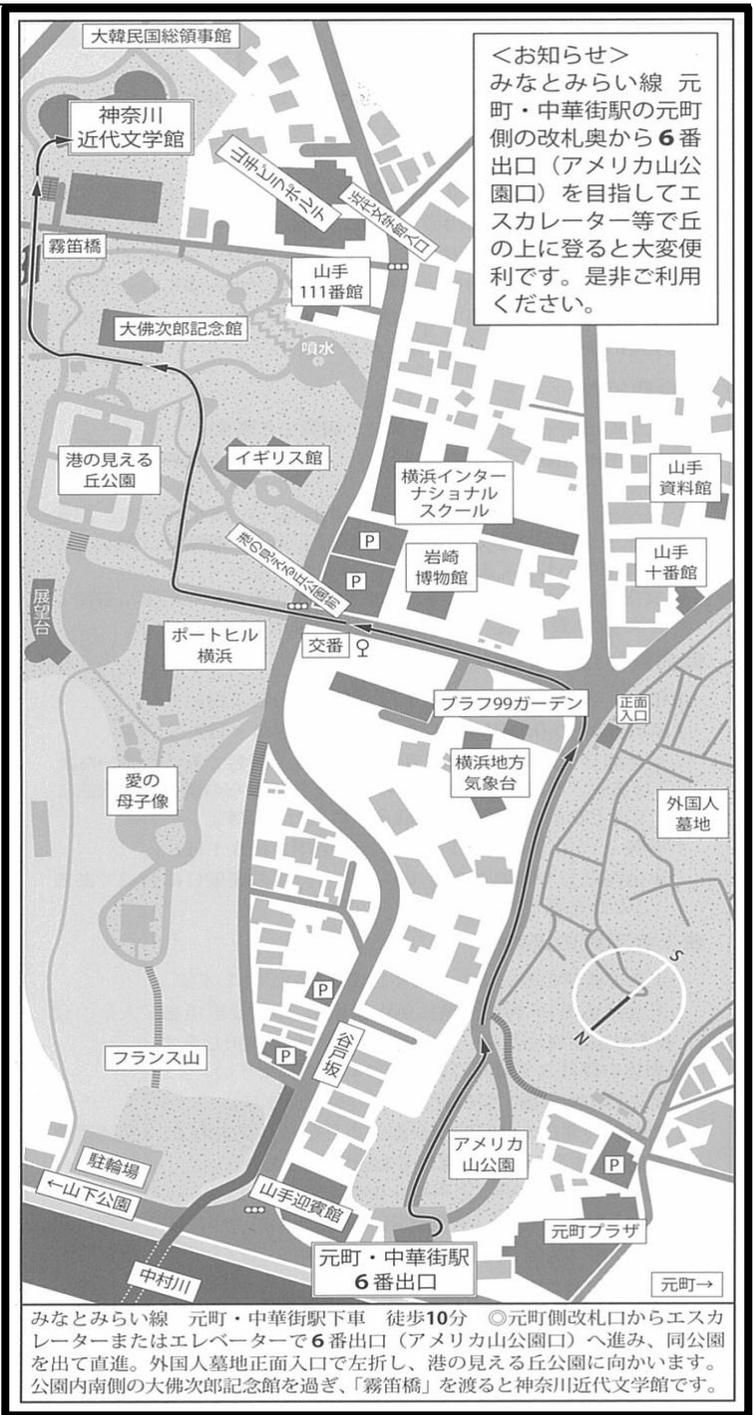
代表幹事 佐藤 秀明

※大会の終了後に総会を開催します。その後、館外にて懇親会を催す予定です。

県立神奈川近代文学館 アクセスマップ

〒223-0108 神奈川県横浜市中区山手町二一〇

- 元町・中華街駅より、徒歩一〇分（みなとみらい線）
- 石川町駅より、徒歩二〇分（JR・京浜東北線）
- 神奈川中央交通バス一系統（桜木町駅⇨保土ヶ谷駅）、横浜市営バス二〇系統（桜木町駅⇨山手駅）、観光スポット周遊バス「あかいくつ」、いずれも「港の見える丘公園」下車、徒歩三分



★文学館内の喫茶店「鮎喫茶すすす」は当日営業しております。文学館より徒歩八分圏内にコンビニエンスストアがいくつかあります。

【企画趣旨】

日本独自ともいえる文庫本の歴史のはじまりは明治三〇年代に登場した袖珍本とされるが、現在の文庫のかたちを定着させたのは昭和二年創刊の岩波文庫である。その成功を受け、多くの出版社が文庫を創刊した結果、文庫本市場は多様なものとなり、いまでは各出版社が独自色のレーベルを持っている。

文庫本の最大の特徴として、コンパクトで持ち運びやすく、廉価で手に取りやすいことが挙げられる。いわゆる「名作」を流布本として人びとに広く届け、時としてその権威づけに貢献し、また文学ジャンルへの「入口」として機能するなど、文学の制度的な支柱として文庫が機能してきたのは、その特色と深く関係しているだろう。一九七〇年代後半にはじまる角川書店を中心とする映画やテレビを通じた大量宣伝からなるメディアミックス戦略以降、各出版社の「夏の文庫フェア」や多種多様なメディアと結びついたカバーなどによって、文学は商品としての側面を強くしてきたが、そのなかで文庫の存在感は決定的なものとなっていった。以前はハードカバーなどですでに出版されている書籍を文庫本として再販することが一般的だったが、近年では書き下ろしの文庫も増え、価格の上昇とともにその価値ひいては権威性はますます高まっている。ライトノベルにみられるように、レーベルがジャンルを枠づけてしまう点においても、現在の文学の出版において文庫の果たす意味は決して小さくはない。このような文庫をめぐる出版文化の歴史を対象化することは、文庫が文学の生成、ならびに作品と読者を結び合わせる言説空間の生成に対してどのように寄与し関わり合っているのかを紐解くことに繋がるのではないだろうか。

一方、文庫本に挿入されたイラスト、著者近影などは文学作品の解釈に少なからず影響を与える。そこに付された注釈や解説についても同様である。それらが広く流布することは、読者の解釈に意味生成の場ிற்கかの支配的な力が加わることを意味している。また、同じ作品が複数のレーベルから出版される機会が多いのも文庫の特色のひとつだが、装幀やレイアウトは文庫ごとに異なり、時には本文が違っていることもある。作品の内容やイメージに関わるこれらの要素について比較検討することは、文庫を長所・短所それぞれ視点から捉え直す可能性を秘めているだろう。

電子書籍が親しまれるようになり、オーディオブックも人気を博している現在、文庫の意味は将来的に変化していくかもしれないが、それらの底本となるのはやはり文庫本がほとんどだ。文庫本というメディアの存在意義や歴史性・特異性を明らかにする研究や、強い影響力を持つがために生み出される文庫の功罪について多角的に検証する研究を願っている。

【講演者紹介】

文庫解説という迷宮

一九五六年、新潟市生まれ。文芸評論家。一九九四年、『妊娠小説』でデビュー。二〇〇二年、『文章読本さん江』で第一回小林秀雄賞。他の著書に『文庫解説ワンダーランド』『日本の同時代小説』『挑発する少女小説』『出世と恋愛』など多数。

斎藤 美奈子（さいとう・みなこ）

（文芸評論家）

【報告要旨】

一九五〇年前後の文学形式 —— 文庫本再興期をめぐって ——

多田 蔵人（ただ・くらひと）

明治の「縮刷本」が刊行されてから今日までの間に、いわゆる文庫本の発行点数がいちじるしく少なかった時期がある。終戦から昭和二四年（一九四九）、板紙統制解除までの四年間がそれで、このころ文庫本と単行本は形態のみならず内容の面でも接近していた。戦前ならば文庫本としてあらわれたらう本が単行本で出たこの時代の文学出版は、ふたたび書店に各社の文庫が並びはじめると時期以降の文学形式、たとえば長篇小説の流れに影響を与えたと考えられる。

「戦後文学は一九三〇年代文学のむしかえしだつていう説があるでしょう」（大岡昇平・埴谷雄高「二つの同時代史」一九八二・一〇一九八三・一二）「世界」、大岡昇平の発言。「むしかえし」は戦前の作品を新刊で出しなおすという意味の、戦後出版の慣用語でもあった。本発表では「むしかえし」本時代から文庫本再興までの文学の流れを、戦後のあたらしい「文庫」の形を提案して登場した河出書房と角川書店の動向を軸として追いかけてみたい。

（国文学研究資料館）

文庫／文庫本がもたらした若年層向け小説の新展開

——「ライトノベル」の萌芽・誕生・確立——

山中 智省（やまなか・ともみ）

今やマンガ、アニメ、ゲームなどと並び、現代日本の有力な娯楽コンテンツとなっているライトノベル。マンガ・アニメ風のキャラクターイラストをはじめとしたビジュアル要素を伴って出版される若年層向けのエンターテインメント小説として、「面白ければなんでもあり」といわれるほど多彩な作品の数々と、個性豊かな作家たちを世に送り出してきた実績を持つそれは、いかにして登場し、これまで発展を遂げてきたのか——。本報告ではその要因等を、作品の主要な刊行媒体となってきた文庫／文庫本の存在から検討していく。具体的には、一九七〇年代以降に相次いで到来した第三次・第四次文庫ブームの動向に着目し、その渦中で生じた文庫／文庫本の概念と特徴の変容、さらには、秋元文庫（秋元書房）、ソノラマ文庫（朝日ソノラマ）、集英社文庫コバルトシリーズ／コバルト文庫（集英社）を筆頭に、同時代の中・高校生をターゲットに据えた複数の若年層向け文庫レーベルの登場が、「ライトノベル」の萌芽・誕生・確立の展開を生んだ様相に迫りたいと考えている。

（白百合女子大学）

「障害者差別解消法」に関するお知らせ

*昭和文学会は、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）に対応するための窓口を設けることといたしました。詳しくは、昭和文学会HP (<http://swbg.org>) にてご確認ください。また下記QRコードから、直接当該記事を閲覧になることもできます。

